ISSN　0915－6925

大学アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2013.10.31　No. 49

Japan Association of College and University Archives：Eastern Japan Division

目　　次

・西山　　伸「第２回大学史展の開催に向けて」…… 1
・瀬沼　達也「北井辰弥氏「グローバル化社会における大学史研究」を聴いて」…… 3
・田中　智子「昭和館見学会に参加して」…… 4
・全国大学史資料協議会東日本部会 2013 年度総会議事録…… 5
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録 …… 10
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録 …… 13

2013年３月14日(木)　研究会

第２回大学史展の開催に向けて

京都大学大学文書館　西山　　伸

東日本部会は、2012 年度総会において、特別事業の開催を決定し、その内容について検討するため特別事業ワーキング・グループ（以下「WG」と表記）を設置した。WG は、村松玄太（明治大学）、松原太郎（日本大学、事務局）、齊藤研也（神奈川大学、事務局）の各氏および西山を構成員とし、検討を行った結果第２回大学史展の開催が適当ではないかとの結論に達した。展示開催については、幹事会の承認を得たので、WG は、研究会を開催して展示の内容について広く会員に議論してもらうこととし、準備を進めた。

研究会当日は、まず村松玄太氏より「大学史展の傾向について　―全国大学史資料協議会会員へのアンケート結果から―」と題した報告を行い、次いで西山より「「大学史展」シミュレーション　―戦争と大学―」、齊藤研也氏より「「大学史展」シミュレーション　―昭和の大学と学生―」という報告を行った。

【村松報告】

村松報告は、WG が会員校を対象に 2012 年 10 月に行った展示の状況についてのアンケートをもとに構成された。同報告では、まず展示の形態としては、沿革を通史的に示す展示とテーマ展示の二つに分けることができるとの指摘があった。そのうち、テーマ展示の中で大きな比重を占めるのは創立者・教職員・卒業生など大学関係の人物を取り上げる展示であり、続いて学校生活、学生の衣食住に関する展示がよく見られていること、その他注目すべき展示としてはキャンパス施設、大学が関係する地域との連動展示、附属・関連学校、新制以降の歩み、大学アーカイヴズの紹介、災害と大学、テレビドラマなどで取り上げられた関係者の展示といったものが挙げられること、などの指摘があった。また、前回（2008 年度）に行ったアンケートからの変化として、①会場の多様化・地方開催が増加したこと、②ホームカミングデー展示や

新入生向け展示などが多く見られるようになったこと、③テーマ展示の比率が増加しつつあること、④図録などの成果物が充実してきたこと、が挙げられた。その一方で課題としては、展示のバリエーションが前回に比べて狭まった印象があり、例えば戦時期を扱った展示がほとんど見られなかったこと、が述べられた。

【西山報告】

西山報告は、大学史展のテーマとして「戦争と大学」を立てた場合、どのような内容が考えられるか、についてであった。まず、近年の大学や研究者による調査・研究の動向が紹介され、学徒出陣や学問思想への弾圧などについては一定程度明らかになってきている反面、戦時下の教育・研究の実態に関してはなかなか具体像が見えてこないとの指摘があった。さらに、村松報告にもあるように、近年では戦争をテーマとした会員校の展示は少なく、あったとしても時代背景の一つとしての扱いとなっている場合がまま見られるとの指摘があった。

次いで、「戦争と大学」をテーマとして具体的な展示内容を考えた場合、（１）軍事教練の開始、（２）学問・思想への弾圧、（３）研究・教育の戦時体制化、（４）学園生活、（５）勤労動員、（６）学徒出陣、（７）空襲、疎開、（８）敗戦直後の大学、といったものが考えられるとの紹介があった。そして最後に留意点として①今年が学徒出陣 70 年、再来年が戦争終結 70 年であり、社会的な注目度が高くなることが予想されること、②被害をうけた事実だけでなく、大学が積極的に戦争に関わっていった側面や、戦中と戦後の連続性などを含む戦争と大学の複雑な関わりを示していく必要があること、③史料に基づいた展示を構成することが非常に重要であること、が挙げられた。

【齊藤報告】

齊藤報告は、大学史展のテーマとして「昭和の大学と学生」を立てた場合、どのような内容が考えられるか、についてであった。まず、「昭和」という時代設定について、厳密な意味での区分ではなく 1920 年代の大学・高等教育機関の増設から、戦争を経て、戦後の学制改革による新制大学の発足、さらに高度成長から大学紛争期くらいまでをイメージしているとの説明があった。そして、具体的な展示内容として、（１）学校内の学生生活：入学・卒業（入試・卒業後の進路）、授業・実習（講義ノート・教科書・実験器具・授業風景写真）、学内生活（学術文化活動・スポーツ活動）、（２）学校外の学生生活：服装（制服・制帽・マント・下駄・軍靴・ゲートル・私服化）、食事（学食・学生向け食堂）、住まい（寮生活・下宿）、（３）時代的・制度的背景としての「昭和」、といったものが考えられるとの紹介があった。また、展示方法としては、時期区分による展示と内容区分による展示とが考えられるが、前者には時代的特徴は把握しやすいがある特定のテーマについての通時代的比較が難しい、後者にはテーマごとの変遷・特徴は追えるが時代背景がつかみにくい、といった問題点がそれぞれ考えられるとした。そして最後に意義と課題として、①個別大学にとどまらない多様な学生像が見えてくることが期待されること、②「昭和」と設定することでいわゆるエリート教育から大衆化まで学生像の変化を辿ることができ、それによって大学そのものの歴史や今後について考察が可能になること、③大学アーカイヴズとして、学外の学生関係の資料などをどこまで展示できるかは困難な点があること、が指摘された。

報告した三氏（左から）
松村玄太氏・西山伸氏・齊藤研也氏

2013年５月29日(水)　全国大学史資料協議会東日本部会2013年度総会記念講演

北井辰弥氏「グローバル化社会における大学史研究」を聴いて

学校法人関東学院学院史資料室　瀬沼　達也

2013年５月29日（水）に中央大学後楽園キャンパスで開催された中央大学法学部准教授の北井辰弥氏（専門：英米法）による講演を聴いた。

北井氏は配付のレジュメに従い講演を行った。第１項目は「日本の大学と法律学」、第２項目は「中央大学の創立者と留学先」であった。

第３項目は、講演タイトルでもある「グローバル化社会における大学史研究」について具体例を援用しながら話を展開された。

まず、「グローバル化とは何か？」と問い。国際化という意味では、明治期の大学創立者たちは国境を越えてすでに活躍した。が、今日グローバル化・デジタル化により大学史研究が深化している。グローバル化社会のアクター（活動主体）としての大学の重要性については、目を開かせるものがある、と述べられた。

次に新しい研究協力スタイルの一例として中央大学史編纂課とボストン大学ロースクールDavid Seipp教授との共同研究について紹介された。同教授は「菊池武夫英文ノート」（中央大学史編纂課所蔵）の意義を見出された。（菊池武夫氏は中央大学の18人の創立者の一人）ボストン大学における同氏留学当時の講義内容が正確に記録されており、例えば、著作物を遺さず早世した伝説のJohn Green氏の記録は、講義担当者の学問の発見であり、アメリカ法史における意義と言える。アメリカ法の日本における継受についは、例えば、菊池氏による日本語での講義録との比較により、日本法史における意義がある。以上の具体例により、講師はグローバル化の中でアーカイヴズ間の協力、研究者間の協力・議論の重要性を強調された。

最後にまとめに代えて、アメリカの２つのアーカイヴズを訪問して感じたことを述べられた。Howard Gotlieb Arhival Research Centerは、著名人博物館といった印象で、ボストン大学自体の歴史がメインではない。しかし、大学は結局「人」の集まりであり、これも一つのあり方か、と言われた。Harvard University Archivesでは、収蔵だけでなく、大学文書管理の方針の決定・実行が進んでおり、必要な情報にかなり正確に迫ることができた。ハーヴァード大のアーキヴィストの次の言葉が印象深かった、と北井氏は語られた。「アーキヴィストの仕事は、すべての人を教育することです。」

講演する北井辰弥氏

筆者の心に今も残っている北井氏の言葉がある。

「研究と教育を宝庫とする大学こそ、国境を越えたグローバルな問題、たとえば環境、人権、教育問題などの解決に貢献できる活動主体、アクターになれるはず。もし、そういうことがなければおそらく日本の大学には未来はないと思う。未来がないところの過去の資料だけを集めることは、全くやりがいのない仕事である。未来につながるからこそ、現在の文書、データの管理があって、過去の検

証や研究に意味がある。」

この講演により、アーキヴィストは、ミイラ取りがミイラにならないように戒め、未来のために、未知の人たちにとって重要な仕事をしていることを誇りに思いながら、グローバルな視点で物事を考えながらも、地道な歩みを進めることの大切さを再確認できた。今後のアーカイヴズのあり方とその仕事の意義を学べたことに感謝したい。

2013年７月11日(木)　研究会

昭和館見学会に参加して

立教大学立教学院史資料センター　田中　智子

第85回東日本部会研究会においては、九段下にある昭和館の見学を行った。講演や報告がなく、見学会のみというのは極めて稀なことであると聞いているが、その分見学時間を長めにとっていただき、じっくり見学することが出来た。

見学を始めるにあたり、まず学芸課長の渡邉一弘氏から昭和館についての説明をしていただいた。渡邉氏のお話によると、昭和館は戦没者の遺族のために作られた施設であり、戦時のくらしを中心に展示を行っている。戦時のくらしを中心としたのは、戦争そのものを語らないためであり、ゆえに開館当初は展示室ではなく陳列室という名称で、恣意的な説明を省いていたそうだ。しかし、その後小中学生の来館者が増えたこともあり、少しずつ解説を加えてきたそうである。

一通りの説明がなされた後、二手に分かれて見学を行った。常設展示室は７階と６階にあり、昭和10年代から30年代にかけての人々の暮らしにまつわる物品が、「家族の別れ（出征）」、「昭和10年代の暮らし」などのテーマ別に、時系列で展示されている。そのため、順路に従って歩みを進めていくうちに、タイムスリップしているような感覚を覚えた。

全体的に、戦中戦後の生活用品の展示が多く、キャプションなど文書による説明は少なめであると感じた。これは前述のように、戦争そのものについての恣意的な説明を行わないという方針からそうなっている。戦争を賛美するのでもなく、かといって徒に被害者意識を植え付けるのでもなく、来館者一人一人が展示物と向き合って戦争について考える機会を提供している。

昭和館の解説を行なう渡邉一弘氏と参加者

しかしながら、小中学校の調べ学習などで、どうしても解説が必要な来館者もいる。そのため、セクションごとに展示物の解説シートが置かれていて、自由に持ち帰れるようになっている。説明書は大人用と子ども用の２種類があり、様々な来館者のニーズに対応しているのが素晴らしいと感じた。

また、常設展示室の出口付近には、「体験ひろば」というコーナーがあり、実際に昔の道具を触ってみたり、防空頭巾など戦中戦後の人々の服装を着てみたりすることが出来る。戦争を知らない世代、特に小中学生の子どもたちにとっては、戦争を知り、当時の生活を体験出来る貴重な機会である。また、同

コーナーではPCで現在および過去の展示資料の一覧、およびそれらの解説を見ることも出来、資料調査や学習を行いたい来館者に対して便宜が図られている。

この昭和館は常設展示室のほか、図書室や映像・音響室も合わせ持つ複合施設であり、今回それらも見学することが出来た。この二室にある資料はデータベース化されており、キーワード検索では本や雑誌の目次にある言葉もヒットする。また、新しい本だけでなく古い本や雑誌の目次も登録されており、非常に利便性は高いと感じた。例えば、「立教」というキーワードで検索すると、『アサヒ・スポーツ』や『蛍雪時代』の古い号の目次も出て来る。今後、資料調査が必要な際は是非利用したいと思う。

今回の見学を通じて、展示のあり方および来館者の様々なニーズへの対応の仕方について考える機会を与えられ、大変よい勉強をさせていただいた。今後もし展示に携わる機会に恵まれたら、今回の経験を活かしていきたいと思う。

全国大学史資料協議会
東日本部会 2013 年度総会議事録

日　時　2013 年 5 月 29 日（水）
　　15 時 30 分～ 16 時 30 分
会　場　中央大学後楽園キャンパス
　　3 号館 3 階 3300 教室

〔部会総会の成立〕
＊現会員数と出欠状況
名誉会員
＜総計＞ 5 ＜出席＞ 3
機関会員
＜総計＞ 66 ＜出席＞ 45
＜欠席届＞ 20
個人会員
＜総計＞ 34 ＜出席＞ 5
＜欠席＞ 10
総計
＜総計＞ 105 ＜出席＞ 53
＜欠席＞ 30
＊総会定足数は、機関会員 66（休会会員は除く）、個人会員 34 の総計 100 の過半数＝ 50 である。
＊部会規約 11 条 5 項に基づき、欠席届を総会議長への委任状とするため、出席会員数（50）と欠席届提出会員数（30）の合計は 80 となり、部会総会は成立した。

〔出席会員〕
青山学院　神奈川大学　関東学院
慶應義塾　國學院大學　淑徳大学
芝浦工業大学　女子美術大学
成城学園　専修大学　大東文化大学
中央大学　帝京大学　東海大学
東京農業大学　東邦大学
東洋学園大学　獨協学園
日本医科大学　日本女子大学
日本体育大学　日本大学
武蔵野美術大学　明星大学
明治学院　明治大学　立教大学
立教学院　立正大学
鈴木　秀幸　東田　全義
石田　順二　桂　典子
谷本　宗生　中村　青志
西山　　伸　細見　大作

開会の挨拶　益井　邦夫氏
　　（会長校　國學院大學）
会場校挨拶　平井　裕二氏
　　（中央大学大学史編纂課長）
議長の選出　議　長　谷本　宗生氏
　　（東京大学史史料室）
　　副議長　小関　有希氏
　　（額田記念東邦大学資料室）
議　事　1．2012 年度事業報告書・同決算報告について
　　事務局（神奈川大学）から、配布資料「2012 年度事業報告書」に基づいて、昨年度の事業が報告され、会計委員（大東文化大学）

から配布資料「2012年度収支決算書」（7頁【表1】）に基づいて昨年度の収支決算が報告された。次いで監査委員（武蔵野美術大学）から決算が適正であった旨の監査報告（8頁）があり、各報告について満場一致で承認された。

2．2013年度事業計画案・同予算案について

事務局（神奈川大学）から、配布資料「2013年度事業計画書（案）」に基づいて、本年度事業計画案が説明され、次いで会計委員（大東文化大学）から配布資料「2013年度収支予算書（案）」（9頁【表3】）に基づいて本年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画・予算案とも原案通り満場一致で承認された。

3．その他

特になし

閉会の挨拶　西山　伸（副会長　京都大学）

記念講演　北井　辰弥氏（中央大学法学部准教授）

演　題　「グローバル化社会における大学史研究」

〔概要〕

はじめに自己紹介で「英米法の研究を進める中で大学史に関わらざるを得なかった」と大学史との関係を述べられた。次に明治期に創設された主な法律学校が紹介された。

中央大学は英吉利法律学校として18人の法律家によって創設された。その中の菊池武夫（初代学長、ボストン大学ロースクール最初の日本人卒業生）と増島六一郎（英国ミドル・テンプルに留学）について各々の留学先での足跡が現地の文章で紹介された。彼らの活躍は日本の法学史・大学史のひとこまであると同時に現地の歴史でもある。

講演する北井辰弥氏と総会出席者

菊池が残したノートには当時のボストン大学の講義内容が正確に記録されていた。現在、中央大学とボストン大学によって解読作業が進んでいるが、これは国際的な研究協力の新しい形であり、その成果はアメリカ法史と日本法史の双方に意義あるものとなるだろう。

最後にご自身が米国のアーカイブズを訪問して感じたことを述べられた。（清野早苗）

情報交換会　3号館10階31008号室において情報交換会を開催した。副会長の東海大学中西祐吾氏から開催の挨拶が、名誉会員の鈴木秀幸氏から乾杯の発声があった。司会進行は明治大学村松玄太氏が務めた。新規入会会員、初参加会員等の挨拶があり、和気あいあいの中情報交換会が行われた。最後に、中央大学大学史編纂課の中川壽之氏から閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会
2012 年度収支決算書
2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日

【収　入】　（単位　円）

項　　目	予　算	決　算	差　異	摘　　要
会費収入	1,500,000	1,470,000	30,000	
法人等会員	1,360,000	1,320,000	40,000	66 機関（うち新入会 1）、休会 8、未納なし　@ 2 万円
個人会員	140,000	150,000	△ 10,000	28 名（うち新入会 5）＋未納分 2、2012 年度未納 4、@ 5 千円
利息収入	1,000	853	147	
預貯金利息	1,000	853	147	銀行利息、郵便貯金利子
参加費収入	720,000	966,000	△ 246,000	
部会総会参加費	315,000	399,000	△ 84,000	日本女子大学　57 名　　@ 7,000 円
全国総会参加費	405,000	567,000	△ 162,000	同志社大学　63 名　　@ 9,000 円
印税収入	5,000	14,400	△ 9,400	
印税収入	5,000	14,400	△ 9,400	『日本の大学アーカイヴズ』30 部× 480 円（定価 10%）
雑収入	0	0	0	
合　計	2,226,000	2,451,253	△ 225,253	

【支　出】

項　　目	予　算	決　算	差　異	摘　　要
運営費支出	120,000	5,667	114,333	
総会費	50,000	0	50,000	会場費、設備使用料、講師交通費等
幹事会費	20,000	687	19,313	会場費、設備使用料、茶代等
部会研究会費	50,000	4,980	45,020	会場費、設備使用料、入場料、手土産代等
謝礼支出	100,000	70,000	30,000	
講師謝礼等	100,000	70,000	30,000	12 月研究会（寺崎氏）、1 月研究会（児島氏）
消耗品費支出	10,000	0	10,000	
消耗品費	10,000	0	10,000	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	302,400	97,600	
印刷費支出	400,000	302,400	97,600	会報印刷費（年 2 回）No. ４７，４８
通信費支出	150,000	77,920	72,080	
事務連絡費	150,000	77,920	72,080	事務連絡費、会報送料他
手数料支出	10,000	1,680	8,320	
手数料等	10,000	1,680	8,320	銀行振込手数料他
参加費支出	380,000	564,352	△ 184,352	
総会参加費	380,000	564,352	△ 184,352	情報交換会（部会総会￥232,000、全国総会￥332,352）
事業費支出	500,000	216,921	283,079	
出版事業	400,000	208,309	191,691	研究叢書（13号）印刷/リーフレット印刷（西分担金￥104,081）
その他	0	0	0	集計費・委員交通費・展示事業等
ホームページ事業	100,000	8,612	91,388	維持・運営費 (西日本分担金￥5,612）
30 周年記念事業積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合　計	2,220,000	1,738,940	481,060	

当年度収支差額	6,000	712,313	―	
前年度繰越収支差額	3,386,057	3,386,057	―	
翌年度繰越収支差額	3,392,057	4,098,370	―	

【表 2】

2012 年度貸借対照表

2013 年 3 月 31 日

【資　産】　（単位　円）

項　　目	本年度末	前年度末	増　減	摘　　要
30 周年記念事業積立金	1,500,000	1,000,000	500,000	三井住友銀行普通預金
銀行預金	4,063,428	3,344,648	718,780	
三井住友銀行	4,063,428	3,344,648	718,780	経堂支店普通預金
郵便貯金	5,340	5,340	0	
ゆうちょ銀行	5,340	5,340	0	通常貯金
現金	29,602	36,069	△ 6,467	
会　計　校	6,771	2,491	4,280	大東文化大学
事　務　校	4,701	18,508	△ 13,807	神奈川大学
事　務　校	18,130	15,070	3,060	日本大学
合　　計	5,598,370	4,386,057	1,212,313	

【負債・収支差額】　（単位　円）

項　　目	本年度末	前年度末	増　減	摘　　要
負債	1,500,000	1,000,000	500,000	
30 周年記念事業引当金	1,500,000	1,000,000	500,000	
収支差額	4,098,370	3,386,057	712,313	
収支差額	4,098,370	3,386,057	712,313	
合　　計	5,598,370	4,386,057	1,212,313	

2013 年 4 月　8 日

上記の通り報告します。

会計委員　大東文化大学　　浅沼　薫奈　㊞

明 治 大 学　　村松　玄太　㊞

2013 年 4 月 18 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員　武蔵野美術大学　　千羽　一郎　㊞

慶應義塾大学　　清野　早苗　㊞

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会
2013 年度収支予算書（案）
2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日

【収　入】　（単位　円）

項　　目	2013 年度予算	2012 年度予算	増　減	摘　　要
会費収入	1,550,000	1,500,000	50,000	
法人等会員	1,360,000	1,360,000	0	68 機関＠ 2 万円（2012 年度 66 機関、休会 8 機関）
個人会員	190,000	140,000	50,000	34 名 ＠ 5 千円（2012 年度 32 名、2012 年度未納 4 名）
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息、郵便貯金利子
参加費収入	660,000	720,000	△ 60,000	
部会総会参加費	165,000	315,000	△ 150,000	55 名　＠ 3,000 円（2012 年度日本女子大学 57 名）
全国総会参加費	495,000	405,000	90,000	55 名　＠ 9,000 円（2012 年度同志社大学 63 名）
印税収入	10,000	5,000	5,000	
印税収入	10,000	5,000	5,000	『日本の大学アーカイヴズ』20 部× 480 円（定価 10%）
雑収入	0	0	0	
合　　計	2,221,000	2,226,000	△ 5,000	

【支　出】

項　　目	2013 年度予算	2012 年度予算	増　減	摘　　要
運営費支出	120,000	120,000	0	
総会費	50,000	50,000	0	会場費・講師交通費他
幹事会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料他
部会研究会費	50,000	50,000	0	会場費・入場料・茶代他
謝礼支出	100,000	100,000	0	
講師謝礼等	100,000	100,000	0	研究会・総会等における講演料
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	380,000	400,000	△ 20,000	
印刷費支出	380,000	400,000	△ 20,000	会報印刷費（年 2 回）、封筒印刷費
通信費支出	100,000	150,000	△ 50,000	
事務連絡費	100,000	150,000	△ 50,000	会員連絡費、会報送料他
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	銀行振込手数料他
参加費支出	500,000	380,000	120,000	
総会参加費	500,000	380,000	120,000	情報交換会費その他（5 月部会総会、10 月全国総会）
事業費支出	450,000	500,000	△ 50,000	
出版事業	300,000	400,000	△ 100,000	叢書編集印刷、リーフレット印刷、その他
特別展示事業	100,000	0	100,000	展示事業準備費
ホームページ事業	50,000	100,000	△ 50,000	事業維持費
30 周年記念事業積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合　　計	2,220,000	2,220,000	0	

当年度収支差額	1,000	6,000	―	
前年度繰越収支差額	4,098,370	3,386,057	―	
翌年度繰越収支差額	4,099,370	3,392,057	―	

全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

第126回　2013年3月14日（木）
12時30分～13時50分
会　場　明治大学駿河台キャンパス
大学会館8階第3・第4会議室
出　席　神奈川大学　國學院大學　専修大学
大東文化大学　東海大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
西山　伸
議　題　(1) 2013年度研究会について
・研究会担当（東海大学）より、研究会に関するアンケート結果が報告された。その結果と、2015年度には「第2回大学史展」を計画していることも踏まえて、2013年度の年間テーマを「展示に関する企画」と決定した。詳細は次回検討する。
・各大学の博物館紹介のため、スタンプラリーを実施してはどうかとの提案があり、まずはビジュアル的な「大学博物館マップ」の作成を考えてはとの意見が出された。この件については、今後幹事会で検討していくことが確認された。
(2) 2013年度東日本部会総会について
・事務局（日本大学）より、2013年度総会について、5月29日（水）に中央大学後楽園キャンパスで開催するとの報告があり了承された。引き続き会場校（中央大学）と調整し、次回幹事会で詳細を決定することとなった。
(3) 特別事業について
・西山伸氏より、本日の研究会（特別事業ワーキンググループ報告）での議論を踏まえて、「第2回大学史展」案を作成する。次回の幹事会で検討の上、5月の総会に諮るという手順で進めていくとの報告があり了承された。
(4) 会報について
・会報担当（神奈川大学）より、会報第48号の編集進捗状況の報告があった。
(5) 東日本部会会計等について
・事務局（日本大学）より、東日本部会総会参加費の減額について提案があった。
併せて特別事業費や全国総会費等の事業収支についても、検討委員会を設けて見直してはとの提案があり、次回幹事会で再度検討することとなった。
(6) その他
①東日本部会研究会のオブザーバー参加について
事務局（日本大学）より、ナカシャクリエイテブの中原大氏、帝京大学の堀越峰之氏（博物館開設担当）が東日本部会研究会にオブザーバーとして参加する旨の報告があり、了承された。
②次回幹事会について
次回幹事会は4月25日（木）に開催することとし、会場については、後日決定することとなった。

第127回　2013年4月25日（木）
14時30分～17時10分
会　場　明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン2階A1会議室
出　席　神奈川大学　國學院大學　専修大学
大東文化大学　東海大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
西山　伸　馬場　弘臣
議　題　(1) 2013年度研究会について
・2013年度の研究会テーマについて検討し、年間テーマを「大学史資料の活用と展示」に決定した。
・7月研究会について、馬場氏より開催案が提示され、展示見学を行なうことが承認された。具体的な見学先などの選定は研究会担当（東海大学）に一任された。
なお、研究会は、7月研究会は明治大学、12月および翌年1月は、武蔵野美術大学（展示見学形式）、國學院大學（講演会形式）が担当することに決定した。
・展示見学先候補については、有意

義な研究会にしていくため、入場料の発生する場合なども含めて今後広く候補を検討することにした。

（2）2013年度東日本部会総会について

・総会の案内について、事務局（日本大学）より報告があり、参加費減額（3,000円とする）の案を含めて承認された。また、事務局（日本大学）および会計委員（大東文化大学・明治大学）で検討した試案が報告され、全国総会参加費の見直しや部会収入と支出のバランスについて検討する小委員会の設置について提案があり、承認された。

・事業報告、事業計画（案）について、事務局（日本大学）より報告があり、承認された。

・決算および予算（案）について、会計委員（大東文化大学）より報告があり、承認された。

・総会の時間割、担当者などについて、事務局（日本大学）より報告があり、承認された。

（3）特別事業について

・特別事業（第２回「大学史展」）の開催について、西山氏より３月研究会での討論をふまえた展示テーマ２案に関する展示の目的・留意点の報告があった。これを受けて、各幹事より意見を募り、総会には「1920年代～1950年代の大学と学生」を展示テーマとして諮ることとした。また、これまでのワーキンググループは、展示に向けた実行委員会などに発展的解消をとげることを確認し、総会議題の事業計画には、特別事業として、展示テーマ、開催時期、実行委員会の発足などを明記することとした。

（4）会報について

・会報編集担当（神奈川大学）より、会報No.48について、2013年３月31日付で発行したとの報告があった。

（5）会員の入会・休会について

・機関会員として帝京大学企画グループ博物館準備室および立教学院展示館設置準備室の入会と、個人会員として豊田徳子氏の入会が承認された。また、機関会員である東洋大学校友会の退会、および愛知教育大学の休会が承認された。

・「休会」の取り扱いについて質問があり、今後検討していくことが確認された。

（6）その他

・大学博物館および大学アーカイヴズなどの所在地マップの作成、スタンプラリー実施の提案が確認され、引き続き検討することにした。

第128回　2013年５月29日（水）
　　14時～15時

会　場　中央大学後楽園キャンパス
　　３号館３階　3300教室

出　席　神奈川大学　慶應義塾　國學院大學
　　専修大学　大東文化大学　東海大学
　　日本大学　武蔵野美術大学
　　明治大学
　　西山　伸

議　題　１　2013年度東日本部会総会について

事務局（日本大学）から、部会総会における時間割・担当者等の最終確認があり、了承された。

２　2013年度研究会について

研究会担当（東海大学）から、７月研究会は見学会として、７月11日（木）、昭和館を会場とすることが報告された。

３　2013年度全国研究会について

・事務局（日本大学）から、2013年度総会・全国研究会の日程・会場等についての説明があり、序で全国研究会テーマ及び報告者について審議し、仮テーマを「大学史資料の活用と展示」とし、展示に関する報告を企画することになった。報告者候補の選定については、メール等で継続審議することとした。

・全国研究会における参加費の見直しについて、東日本部会幹事会の協議結果を西日本部会幹事会へ提示し、検討してもらうことにした。

4　会員の入会について

事務局（日本大学）から、清水善仁氏の個人会員として入会申込みが報告され、承認された。

5　その他

・大学博物館等の所在マップについて

事務局（日本大学）から、大学の博物館・アーカイブズ施設の所在マップを作成し、スタンプラリーなどに利用する企画について説明があり、継続審議とすることになった。

第129回　2013年7月11日（木）
12時30分～13時50分
会　場　昭和館3F第3研修室
出　席　神奈川大学　國學院大學
大東文化大学　東海大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
西山　伸
議　題　（1）2013年度部会総会総括について

・事務局（日本大学）より、2013年度部会総会について参加者人数などの報告があった。

（2）2013年度研究会について

・研究会担当（東海大学）より、本日開催の第85回研究会についてスケジュールおよび注意事項などの報告があった。また、12月および1月研究会の担当校（武蔵野美術大学・國學院大學）を確認し、開催内容については引き続き検討することにした。

（3）2013年度全国総会・研究会について

・日本大学（事務局）より、スケジュール案の報告があった。記念講演の講演者および情報交換会の会場については引き続き検討することにした。なお、記念講演については、神田地区4大学共催にちなんだテーマを希望する提案があり、検討することにした。全国研究会の報告者については、候補者の紹介があり依頼状況の説明がなされた。見学会の会場選定は担当（中央大学）に一任することにした。

・大会報告の準備会については、明治大学にて開催することとし、日程などの調整は事務局（日本大学）に一任することにした。

・全国総会・研究会の会費収入については、翌年度の全国総会資料中で明示することにした。

（4）特別事業について

・西山氏より、第2回大学史展実行委員会について、その役割や構成などの説明があり、発足が了承された。

（5）会員の入退会について

・下田尊久氏の個人会員入会と石原一則氏の個人会員退会が承認された。

（6）その他

・事務局（神奈川大学）より、東日本部会角2封筒の増刷について提案があり、了承された。

・事務局（日本大学）より、会員から寄せられた古書店およびその取扱い資料の情報について報告があり、本日開催の研究会にて周知することとした。

・事務局（日本大学）より、菅真城氏（西日本部会）の『研究叢書』所収論文の自著への転載依頼について説明があり、承認された。

・会計担当（明治大学）より、源泉徴収の取扱いに関連し、①収益事業収入の廃止および②旅費支給規程の作成について提案があった。①中の印税収入の放棄は承認され、②の旅費については提案された規程を暫定的に運用することにした。引き続き旅費規程の制定などに向けて検討を進めてゆくことにした。

・大学アーカイヴズ所在マップの作成や休会校の取扱いについて、引き続き検討することにした。

第130回　2013年9月13日（金）
12時～13時
会　場　明治大学駿河台キャンパス
リバティタワー7階　1076教室
出　席　神奈川大学　國學院大學　専修大学
東海大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
議　題　(1) 2013年度総会・全国研究会の運営について
・事務局（日本大学）より総会・全国研究会の現時点での参加者数について報告があった。
・事務局（日本大学）より、総会・全国研究会日程および役割担当の最終確認があり、未定部分は事務局が処置をすることで承認された。
・事務局（日本大学）より、2013年度の研究会・講演等の記録担当について確認があった。
(2) 2013年度研究会について
・研究会担当（東海大学）より、今年度の企画・実施状況の報告があり、12月担当は武蔵野美術大学、1月担当が國學院大學であることを確認した。
(3) 全国大学史資料協議会20周年事業について
・20周年（2016年）事業については、継続して検討することとなった。
(4) その他
・事務局（日本大学）より、資料保存研究会から、10月21日（月）に開催される「第7回資料保存シンポジウム」の後援について依頼があり、本協議会として承認した旨の報告があった。
・明治大学（村松氏）より、2014年1月24日（金）から開催される専修大学・中央大学・日本大学・明治大学共催の企画展について後援の依頼があり、これを承認した。
・名誉会員鈴木秀幸氏から、総会会場へ新刊著書の見本とチラシを置きたい旨の申し出があり、これを承認した。
・研究叢書第15号（東日本部会担当）の編集担当については、引き続き検討することとなった。

全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

第84回　2013年3月14日（木）
14時00分～17時00分
会　場　明治大学駿河台キャンパス
大学会館8階　第3・第4会議室
出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
国際基督教大学　国士舘大学
芝浦工業大学　女子美術大学
聖路加看護大学　専修大学
大東文化大学　中央大学　東海大学
東京家政大学　東京経済大学
東京女子医科大学　東京農業大学
東邦大学　東洋英和女学院
東洋学園大学　日本体育大学
日本大学　武蔵野美術大学
明治大学　明星大学　立教大学
立正大学
東田　全義　鈴木　秀幸
石田　順二　西山　伸
〔オブザーバー〕
堀越　峰之（帝京大学）
中原　大（ナカシャクリエイテブ）
（以上39名）
会長挨拶　益井　邦夫
（國學院大學校史・学術資産研究センター）
司　会　松原　太郎(日本大学大学史編纂課)
報　告①「大学史展の傾向について―全国大学史資料協議会会員へのアンケート結果から―」
（明治大学大学史資料センター　村松玄太氏）
②「『大学史展』シミュレーション―戦争と大学―」
（京都大学大学文書館　西山伸氏）
③「『大学史展』シミュレーション―昭和の大学と学生―」
（神奈川大学大学資料編纂室　齊藤研也氏）
概　要　まず村松氏より会員校が2008年度以降に行った展示の分類およびその傾向についての話があった。展示会場の多様化や展示フォーマットの確立など各校が積極的に展示

に取り組んでいるといった印象を受けた反面、展示テーマの方は狭小しているのではないかというまとめがあった。

次に西山氏および齋藤氏より展示のシミュレーションが行われた。前者からは「戦争と大学」を考える際に、近年の研究成果を踏まえつつ「教育・研究の実態」を明らかにすること、そして1945年を境に戦前・戦後と断絶させるのではなく、連続した視点で捉える必要性があるのではないかという指摘がなされた。また齋藤氏からは、展示を通して昭和の学生像を浮き彫りにしたいという狙いはあるが、その一方で「昭和」や「学生生活」という言葉の定義付けが非常に難しいという話があった。

質疑応答の後、参加者全員から自校の展示に対する種々の取り組みや本報告に関する感想・意見が寄せられた。　（瀬戸口龍一）

第85回　2013年7月11日（木）
14時00分～16時00分
会　場　昭和館　３Ｆ第３研修室
出　席　神奈川大学　國學院大學
国際基督教大学　自由学園
女子美術大学　大東文化大学
拓殖大学　東海大学
東京女子医科大学　東京農業大学
東邦大学　東洋英和女学院
東洋学園大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
明星大学　立教大学　立正大学
西山　伸　橋本久美子　細見　大作
（以上30名）
会長挨拶　益井　邦夫
（國學院大學校史・学術資産研究センター）
見　学　昭和館　常設展示室　他
概　要　2013年7月11日に開催された第85回研究会は、昭和館を会場に開催された。

昭和館は、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の生活・くらしにかかわる資料を収集・保存・展示するほか、関連する図書・映像資料などの情報を提供する施設である。

研究会は、はじめに昭和館の渡邉一弘氏より館の概要について説明をいただき、二班にわかれて常設展示室などの見学を行なった。展示は、昭和10年代から30年代までの国民生活にかかわる実物資料を中心に構成されている。「体験ひろば」では、再現された井戸ポンプの手押しや戦中・戦後の衣服を着るといったことができ、視覚だけではなく五感を使った展示が行なわれている。また端末を使った情報検索により、展示資料などの詳しい解説を得ることができるなど利用者の便に供している。ついで、映像・音響室などを見学し、各種メディアによる情報提供の例を学び散会した。　（齊藤研也）

ご　案　内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学・広報部大学史編纂課】
〒359-0003
埼玉県所沢市中富南4-25
☎　04-2996-4555

【神奈川大学・大学資料編纂室】
〒221-8686
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎　045-481-5661

会 報 編 集

【神奈川大学・大学資料編纂室】
〒221-8686
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎　045-481-5661